

令和6年度

第5回 区部ユース・プラザ基本構想検討委員会

令和6年9月5日(木)

午後 2 時 00 分 開会

○村松課長代理

それでは定刻になりましたので、ただいまから区部ユース・プラザ基本構想検討委員会の第 5 回を開催させていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本年 4 月から事務局を務めさせていただいております教育庁地域教育支援部管理課ユース・プラザ調整担当の村松と申します。どうぞよろしくお願いいたします。Microsoft Teams 上に同じ資料を写しながらご説明をまいります。本日は資料 1 から 4 をご準備しております。会議次第に沿って議事を進めていきたいと思っております。また、本日の会議は会議次第にございますように概ね 15 時までを予定してございます。それでは開会にあたりまして、教育庁地域教育支援部長山本よりご挨拶申し上げます。

○山本地域教育支援部長

東京都教育庁地域教育支援部長の山本でございます。日頃より東京都の教育行政にご理解を賜りまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。本日大変お忙しいなか区部ユース・プラザ基本構想検討委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。昨年 6 月から議論を重ねていただきまして、本日が第 5 回目で最終回という形とさせていただいております。

本日は、これまでいただいたご意見を整理した内容について、意見交換していただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。その後につきましては、先生方の貴重なご意見も踏まえた形で、都としての基本構想案という形でまとめていく予定でございますので、またそちらの方も状況はお知らせできればと考えてございます。本日も引き続き忌憚のないご意見いただきまして、都の社会教育施設につきまして、より一層のご指導をいただければと思っております。本日は一時間ほどになりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○村松課長代理

山本部長ですが、本日所用によりまして途中で退席させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。では次に出席者紹介ですが、ご出席の委員のご紹介につきましては、お手元の委員名簿と座席表の配布を持ちまして、ご紹介に代えさせていただきます。ご了承ください。また、王委員は本日ご欠席との連絡を頂戴いたしております。

それでは、本委員会ですが委員会設置要項第五条第三項によりまして定足数は半数以上の出席が必要と定められております。本日はオンラインを含めまして 6 名の委員の方にご出席いただいておりますので、本会は成立していることをご報告いたします。また、本日は五十嵐委員長がオンラインでのご参加となります。ぜひオンラインからも忌憚のないご意

見をいただけますと幸いです。会議に先立ちまして、傍聴の方につきましては、発言やチャット機能を使用しないようよろしくお願いいたします。では、今後につきましては五十嵐委員長に以降の進行をお願いしたく存じます。五十嵐委員長よろしくお願いいたします。

○五十嵐委員長

はい。本日もオンラインで失礼致します。前回に引き続き、議事進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。早速議事の方に移らせていただきます。まずは事務局より資料の説明をお願いいたします。

○吉田社会教育施設調整担当課長

事務局を務めさせていただいております社会教育施設調整担当課長の吉田です。よろしくお願いいたします。資料の説明に先立ちまして、本委員会は、東京都情報公開条例に基づき公開で行わせていただきまして、会議資料、会議録等は後日、ホームページなどで公開したいと存じます。公開にあたり、個人情報や都民との間に混乱を生じさせる恐れがある未確定の情報などがある場合、一部非開示として取り扱えればと考えてございますが、いかがでしょうか。

○五十嵐委員長

ただいま本委員会と資料の公開に関する説明が事務局からありましたが、皆さんよろしいでしょうか。

○一同

異議なし

○五十嵐委員長

異議はないということで事務局の提案どおり、委員会は公開で行い、資料についても必要な範囲で公開ということにいたします。よろしくお願いいたします。

○吉田社会教育施設調整担当課長

ありがとうございます。それでは、区部ユース・プラザ基本構想検討委員会第5回説明資料をご覧いただければと思います。本資料については、前回の説明させていただきましたが、委員会での見解をまとめるというのではなく、委員の皆様から出された意見等を整理したものということになってございます。また、本日欠席の王委員からは事前にご意見をいただいておりますので、この資料のご説明をさせていただいた後、ご紹介をさせていただきます。

では資料の説明をいたします。まず意見のまとめですけれども、目次にありますとおり、

三部構成で考えております。「1 検討の背景」「2 意見の概要」「3 今後の方向性」ということで考えているところです。最初に「1 検討の背景」についてです。一点目はユース・プラザ事業の目的についてですが、青少年の自立と社会性の発達の支援及び生涯学習の振興を目的としてきたということを述べております。次に区部・多摩でございますけれども、特に区部の方で老朽化が進んでいる。三点目ですけれども、一方で障害者や外国にルーツのある児童・生徒の増加など、非常に子ども若者の状況が多様化してきています。さらに、近隣にスポーツや文化学習関係の施設が存在するなど、外部環境が非常に変化してきているといった背景を述べています。こうしたことを踏まえまして、本検討委員会では、区部ユース・プラザが中心ではございましたが、ユース・プラザ事業全体について新たに担うべき役割や機能コンセプトなどの議論を重ねてきたところでございます。この意見のまとめは委員の皆様から出された主な意見を整理したものという、意見のまとめの位置づけということをここで示しております。次からが意見の概要になってまいります。見出しのカテゴリーは事務局の方で作らせていただいております。あとはいただいたご意見を抜粋して掲載させていただいているところです。上から順に、全部読み上げるわけではないですが順番に触れさせていただきます。

まず一点目ですが、「都が担う部分が広域的にフォローする必要があるかという観点は非常に重要。障害のある子のためのもとか、多様な人に対応するところは、一つ広域的な施設の売りになる。」次ですが、「基礎自治体でアプローチしにくい年齢層に対する部分に、特にサポートが必要。」「多様なニーズに応じられること、高校生以上の年代に対するサポートを充実させること、宿泊機能も含めて多様な体験ができることは広域的な施設としては非常に重要。」「高校生の研究に対する関心が高まっている中、必ずしも学校の中で研究等ができる場所が自由に使えるわけではなかったり、サイエンス、テクノロジー、アートに関しては、まだ高校生が十分に活動できていないと感じる。そうした高校生たちや団体への支援が必要。」「個人ではつながり合えなかったところを施設が橋渡しすることで、同様の興味関心を持った若者が集い活動していくことが、広域施設として非常に重要な役割ではないか。」「地域の中だけでは解決できない青少年の問題は沢山あると思う。都だからこそ、枠組みや領域を越えて支援したり、出会う場や情報共有する場を作ったり、指導者と接することができるのでは。」「学校や社会教育団体を繋ぐのは都だからこそできること。青少年や青少年を支援する人の学びや交流の場は、都が果たしていく役割だと思う。」こうした意見をいただいております。

次の部分ですが、新たな施設のコンセプトや目的についてもご意見をいただいております。「多摩が野外で区部が文化・スポーツというのではなくて上位の目標が必要というときに、単に教育とか成長だけではない、もう少し上位のコンセプトも入れ込めた方が今らしい。」「都内のスポーツ・文化施設は多様にある。その中で、青少年の主体的な活動、体験活動の場の実現、ダイバーシティな社会を実現していくという上位コンセプトに組み替えていく必要はある。」「上位の目的として、例えば「こんな〇〇な社会を若者と一緒に創って

いくための施設」という社会像があって、そのためにこんな事ができるといった、フェーズを考えてみるとイメージがしやすいと思う。「若者たちが主体的に活動するのだというところは、やはりコンセプトとして残しておけるといい。例えば、今までなかった多様性、共生、エコ、そういった新しい価値観によって、若者と一緒に社会を作っていく場所なのだというスタンスのほうが良い。「都の施設として個々の自治体や団体ではできない体験を提供することや、宿泊的なもの、多様なニーズのあること、そこに都のネットワークなどいろいろな人と一緒に創っていくという価値が大きな目的の下に入ってくるのではないか。」「青少年が自ら自立に向けてプログラムを作っていくところも、新たな考え方として反映できると良い。」といったご意見でございました。

続いてですが、機能について二ページに分かれております。「障害のある子が、普段全然関われない人と関わられるような、手助けの場や機能があると良い。」「多様なニーズへの対応や、共生社会を先駆的に体験できることに加え、グリーンであるとか、環境面に配慮できている経験や体験をできる要素は重要。」「新しい機会や貴重な機会が作られていく中で、施設を訪れる若者世代が熱中しているものや、好きから一步抜けている対象が何かこの場所であれば実現できる、もしくは体験ができる状態も必要。」「共創」ということで、若者と新しい価値とか活力を創造したいNPO、企業、基礎自治体、団体等で、若者の意見を聞いて次の施策に活かすことや、都政や将来の世代づくりに活かせれば、多様な若者が集まる東京ならではの像が描けるのではないか。」「団体、もしくは作り手となる人たちが作れる場所と、高校生たち自身の意見や考え方を反映できる場所、この2つが備わっている状態が、ここでしかできない体験を生み出していくのではないか。」「生活が相当厳しい状況の子もいれば、リーダーシップをすごく発揮している子もいるなど、色々な個人の状況があり、団体も同じ。個人とか団体の段階に応じた機会を共に創っていく施設であるということを考えて方がいい。」

次のページになります。「できれば施設とある団体が社会課題に対して共に宿泊機能やネットワークを活かして解決を目指していくとか、または個人の方々がこういった課題があるというところをスタートしていく機会を提供できるような、共創が生まれる施設として考えていけると良いと思う。」「複数の団体がこの施設を利用し易く、場を作り易いような多目的で設計されている施設が必要ではないか。一つ目は施設として様々な団体が利用し、多様なイベントを開いたり、何らかの支援を施設で行う形。二つ目は情報提供の場所で、様々な団体の情報を提供する形が考えられる。」「周辺の施設や団体をうまくネットワークを作りながら、施設の外と繋がるハブになるような機能を、人とセットで持たせていくことが重要になると思う。」こうした意見をいただいております。

次に区部と多摩についてでございます。「コンセプトは共通で、持っている引き出しが違うのだという棲み分けにしておくほうが、文化・スポーツのための施設と野外のための施設があるという区分けよりもスッキリするのではないか。」「地域の環境や持っている施設が違うので、ここでしかできない体験の中身が違うことが各施設の特徴になる。」「区部と多摩

それぞれの周りで活動している団体を活用した特色があると思う。団体によって、その施設の特色が変わってくると思う。」「両施設とも体験活動は大事だが、多摩は自然、区部は都市型という違いがある。」「区部ユース・プラザは一つの団体が一つのことをやっていくのではなく、色々な団体が同時多発的に多様なイベントを行っていくことで、お互いのことを知り、新たな共創が生まれていく。複数の団体が連携・交流しながらきっかけを作っていく場所ではないか。」「現在の多摩ユース・プラザでは、施設の中で全ての活動や体験学習を完結させようという風を感じられるが、より広域に周囲を巻き込み、多様な体験ができるような形になると、体験の幅がより広がっていくのではないか。」「高校生たちが、個人的に多摩ユース・プラザに行って、色々な学校の子たちと一緒にボランティア活動という形で、自然にまつわる環境整備などをやってみる機会はとても良い。」こうした意見をいただいております。

次のページになりますが、運営についてです。「多様なニーズとか専門性を広域的にフォローしていく上では、都が全て担うというより、それぞれのところで専門性を持ったNPO等と組んでやっていくことが前提にならざるを得ない。」「利用者のターゲットになっている方に何を生み出せるかということコーディネートしていく団体というのが、こういう施設には不可欠になっているのではないか。」「専門的な役割があるNPO等と繋がり、上手くコーディネートできる主体が必要なのではないか。」「コミュニティマネージャーの存在が必要と思う。色々な団体、新しい団体との交流を促進させていき高校生たちも関わりやすくなっていくような役割が必要ではないか。」「専門性自体が細分化されていて、高度化しているのが現状。そういう意味では、ソフトの事業者が一社で、すべての専門的なところを担っていくのは不可能。」「交流の促進の部分や、新しい事業とか考えを作っていく上でどうやって施設と融合させていくのかの部分、高校生や大学生でもできる範囲があるのではないか。メディアを通して発信していきながら若者からの意見を取り入れて、若者たちがそのコミュニティの中の運営を担っていくような組織形態が実現できるのではないか。」「運営体制の中にアウトリーチ的な機能みたいなものを組み込んでいけると良い面もあるかと思う。」「団体が得意な分野は異なるため、相互補完しながら一緒に進めることは、一つの共同体として非常に面白く、相互の交流も図れる。」こうした様々な意見をいただいております。

次ですけれども、3番としまして、今後の方向性イメージとしております。皆様から様々な意見をいただいております。事業の方向性のイメージについて、多く出された意見を基にして、事務局の方で整理させていただいたものとなっております。まずコンセプトとしまして、「子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設」。よくご意見で、自立や発達といったことを前提に、社会を共創するといったことをご意見を多くいただいていたと思います。下の矢印以降の文章でございますけれども、このコンセプトをもう少し、分かりやすく解説したような文言で言いますと、「専門性をもった様々なNPOや地域・学校との接点となり、子供・若者と一緒に社会を創っていく施設」こんなイメージではないかというふうに、意見を整理させていただいております。

目的としては、「多様な子供・若者の自立や社会参画の支援」「共生社会の実現に向けた社

会全体の取組を促進」ということが言えると考えております。機能につきましては、「子供・若者に多様な体験学習を提供」ということについて、多くの意見いただいております。また、「子供・若者の自主的な活動・交流の機会や場を提供」ということで、こちらも多くご意見をいただいております。こうしたことで、「多様な活動を通して子供・若者の自立への意欲が高まり、成長に繋がる」といったことを担っていくものではないかと考えております。機能の三点目ですが、NPO に関しても非常に重要な要素となっております。「担い手となる様々なNPO・団体等が参画・交流し、情報交換等を行う機会を提供」といったことも、この施設の機能として重要である。そういったご意見を多くいただいております。これらは「NPO 間での連携促進や地域活動への還元を通して、社会全体の動きに繋げる」ものだと整理できるかと考えております。

こちらにはございませんでしたが、意見の概要には要素として入れさせていただいた運営部分に関しては、引き続き基本計画を考えていく際に、主軸となってくるお話になりますので、ここの整理の中では一旦中には入れておりませんが、いただいたご意見をもとに、今後検討していくものかと考えております。区部と多摩地域につきましては、当初、私たちが大きく違いを出した方がいいのかと思い、皆さんにもご意見をいただいたところですが、最後のページの※にありますように「区部・多摩地域は同じコンセプトに基づき、立地環境などそれぞれの特色を活かしていく」といった形のご意見が多くいただいていたので、こちらを整理したということで、文言を書かせていただいております。

資料の説明は以上になりますが、王委員からのヒアリングをさせていただきまして、事前にご意見いただいたことについて触れさせていただきます。特に今後の方向性イメージにもございましたコンセプトについてご意見をいただいております。

「コンセプトである「子供・若者の自立・発達に向けた社会を共創する施設」の「共創」は今後すごく大事になってくる。」「このコンセプトについて、SDGs で定めている大目標とターゲット目標のような形で、コンセプトに対するターゲット目標としてより具体性のある目標があるとよいのではないか。コンセプトを具体化させた目標がいくつかあると、各団体や中高生にとって関わりやすくなる。」「若者たちの主体的に活動というところも、これまでの議論でたくさん出てきており、若者たちが関わりやすい施設というのも大事ではないか。」「目標自体を細分化した際に、若者たちが関わりやすいターゲットや目標みたいなものがあると良いのではないか。イメージでいうと「若者の声が反映される教育施設」であり、実際に施設運営の中に入ったり、自分たちの声をもって、一緒にこの施設を作り上げていくようなことができると面白い。」「先ほどの目標に紐付いてくる部分として、団体たちに対してのコンセプトだけではなく、中高生たちにとっても関わりたいと思えて、社会を一緒に作り出していきたいと思える具体性のあるターゲットがあるとより関わりやすくなる。」こういったご感想をいただいております。

以上、資料の説明と、王委員のご意見ということでご紹介をさせていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

○五十嵐委員長

ありがとうございました。意見のまとめについて今、事務局よりご説明をいただきまして、意見の概要とまとめとしての今後の方向性についてということでしたが、これまでの議論でお出しいただいた意見も踏まえまして、補足や修正等ございましたらご意見いただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

○岩切委員

岩切です。よろしいでしょうか。

○五十嵐委員長

岩切委員どうぞ。

○岩切委員

私からは言葉を皆さんと少し議論できればなと思えます。私としては「自立」という言葉が非常に難しい言葉だなとまず感じております。難しいというのは、自立という言葉自体は、医療だとか福祉の分野などで、よく自立支援だとか発達支援とかも含めて多様に用いられている言葉かなと思っております。自立という概念自体は、何十年前の昔の自立という概念と今の自立という概念は、だいぶ捉えられ方が変わってきていると思うのですが、やはり自立を強制するような印象を与えるのはあまりよくないかなと思っております。というのは、多様な若者がいる中で、自立していくことは、経済的自立だったり社会的な自立だったり精神的な自立というのは、それぞれのステージがある中でそれぞれの状況に合わせて、自立に向かってそれぞれ動いているということであって、自治体・行政の施設として、それを支えていくことが大事だと思うので、その自立を目指しなさいという捉え方をされるのは違うのかなという気はしました。

また、「多様な子供・若者の自立や社会参画を支援」とありますけども、その自立というのを例えば学びに変えて「多様な子供・若者の学びや社会参画を支援」だとか、コンセプトの部分に関しても例えば「子供・若者の多様な学びや交流を支援、社会を共創する施設」とかですね。自立という言葉に関して、あまりこの場に用いない方がいいのかなという印象を持ちました。ですので、そのあたりに関して皆さんがどう思われるかを議論した方がいいかなと思いました。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。岩切委員から自立という言葉について、ご意見があったのですが、私も自立というのはやや強いなという感じを受けていて、申し上げようかどうか迷っていたのですが、おっしゃるところはすごく分かるなという感じがします。共創というのと共生

というのもあったので、助け合いながら生きていけるような、そういうことを学んでいく場とか施設というのものもあるのかなと思いましたがいかがでしょうか。

○青山副委員長

よろしいですか。青山です。

○五十嵐委員長

青山委員どうぞ。

○青山副委員長

自立という言葉に関するご懸念も確かにとっと思って聞いていました。岩切委員もおっしゃったように、昔の自立と今の自立はかなり違うので、今の自立だと言えば話は通るのかなと思いつつ、気になる方もいらっしゃるのかなと改めて考えたところです。もう一方で、学びというところとすごく教育的に見えすぎるのも、施設のコンセプトと合うのかどうかと思っと思っています。成長とかも良いと思ったのですが、成長だとまた違う意味が出てしまうのかなとか、ここら辺の言葉を皆さんが納得できるところにうまく落とし込めるといいなと思っっていました。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。他に何か良い言葉ですとか、ご意見ございますでしょうか。

○倉持委員

はい。倉持です。

○五十嵐委員長

よろしく申し上げます。

○倉持委員

今のご意見を伺っていて、社会教育施設なので学びでもいいかと思いつつ、このコンセプトを見ると、「子供・若者の自立発達に向けた社会を共創する施設」のどこで切れるかによって、意味が違うなと思っしました。子供・若者の自立発達に向けた社会をということだとすると、より息苦しいというか。そういう社会を一緒に作るのだということだとすると、向かう社会の方向性がかなりクローズされていることになるのでしょうか。共創するところがあるところが今回すごく議論で出てきていて、矢印の後のところには、「子供・若者と一緒に社会を創っていく」と書いてあって、これはどういう社会かも含めて子供・若者と一緒に創っていくと下の文章の方だと受け止められるのですが、上の文章だとどういう社会を創っ

ていくかは決まっています、そのプロセスを若者と一緒にやっていくのだと捉えられるような気がします。自立とか発達という言葉の強さとも相まって、強めに感じるのかなと思います。代案があるわけではないのですが、文章の組み立て方の整理や意見交換があるといいのかなと思いました。以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。自立の言葉の意味合いが、昔と違っているということですが、その辺の説明を簡潔に加えることは可能でしょうか。

○青山副委員長

それは文の中でという意味ですか。それとも下の矢印のような形でという意味でしょうか。

○五十嵐委員長

できれば文の中の方がパッと見た時に間違いがないかなという気はしますが、無理であればその補足的な説明でも仕方ないと思います。

○岩切委員

注釈にするには難しい要素があるのですがあえて言葉にすると、昔の自立というのは自分一人で頑張るとかやれるみたいなのが印象としては強いのかなと思っています。ただ、現代における自立という概念自体は、一人で頑張るということではなくて、多様な人との関係性を作りながら、経済的に精神的に社会的にやっていくことができる、社会生活を送ることができるというところだと思います。そういう意味では、孤独に頑張ることとはわけが違うところが印象としてはあると思っています。だから、どうしても福祉とか医療で使われている自立という言葉の概念と、ここでいう自立がイコールとして見るには難しいのではないのかなという気がしています。東京都という立場で、自立という言葉を出した時に、福祉や医療の自立と類似した見られ方をされてしまうのではないかという懸念材料もあったので申し上げたところです。

○五十嵐委員長

今いただいた言葉の中で多様な関係性を作っていくとか、そういった言葉を入れると違った意味合いになってきますでしょうか。

○朝日委員

朝日です。よろしいですか。

○五十嵐委員長
お願いします。

○朝日委員

今までのご意見と重なると思うのですが、自立発達に向けた社会というところが、状態を規定してしまっていて、それを目指すことを宣言してしまっているの、やっぱり強いかなと思います。SDGsであったり、政策の上位目標であったりはもちろんありますので、こういう状態を目指すというのはあると思うのですが、施設でやることというのは、どちらかというとプロセスの話なので、何かのためにやりますというための部分を言うよりは、そのプロセスの部分の言った方が伝わりやすいかなと思います。だから、上位目標があったりということで状態を入れなければいけないにしても、副題であったりという形で動作というかプロセスの部分。そういう意味で学びなんかは、状態というよりはもう行動とかプロセスの話なので、共創そのものもどちらかというとプロセスですよね。どういう状態が欲しいというよりは、こういうやり方でやりたいということなので、動作というかプロセスが伝わる言葉の方がいいかなという気はしました。

もう一つ、共創に絡んで気になったのが、目的のところの「社会参画を支援」という言葉です。最初に改めて全部を通してご説明をいただいて思ったのですが、(1)の「広域的な施設が担うべき役割について」だけが、支援とか指導とか、そういう言葉の印象が強いです。共創は支援とか指導というのはもちろん、現場では現実としてそういう役割分担であることなのですが、共創自体はその枠を外すというのが本質。また、支援する人・される人、あるいは教える人・教えられる人というのを外して、教えられている人あるいは支援されている人が支援する側にまわる。あるいはそのことを支援されているように見えること自体が何かのサポートになっているようなことだと思います。一方的な印象のある言葉というのは、少し説明があったり、今までの支援・サポートというあり方とは違うものも目指していることが分かった方が良かったかなとは思いました。以上です。ありがとうございます。

○五十嵐委員長

皆さんの想いというか考えは一致しているのかなという感じがするのですが、この場でなかなか良い言葉が生まれにくい状態かなと思います。自立、社会を共創するとか、プロセスを通じて結果として例えば自立とか発達に繋がるなど、こんな感じで置き換えてもいいのかなとも思ったのですが、他に何かご意見はございますか。小池委員どうぞ。

○小池委員

コンセプトは短く端的に言わないといけないのですが、この話し合いの過程とか、それぞれ意見を聞いてないと何が言いたいのか分からなくないか、一般の人はこの施設はこのコンセプトで作りましたよと言った時に、何が言いたくて何の施設ですかと思うのではない

なという印象を持ちました。先ほどのどこで区切るのかという問題も確かにそれもあるかなと思ったのですが、私は矢印の下の方で言っている内容が、一般の人には分かりやすいのかなと思いました。これが端的に言えているかどうかは置いといて、意味合いとしては、矢印の後の方が分かりやすいかなと思ったので、かっこいい言葉は目を引くのですが、想いとかは通じるようで通じてないみたいになりがちなのかなという印象を持ちました。特別支援教育とかでも、自立と社会参加という言葉は使うのですが、自立は一人一人によって違うイメージしているものも当然違うので、大多数の人がイメージする自立というのは、日々考えている人がイメージする自立とはまた違ってきてくれたら嫌だなと。そうじゃないところが、伝わらないと困るなという印象を持ちました。この共創という言葉は一般的でしょうか。

○岩切委員

最近の言葉ですね。ビジネスとかではかなり多く使われています。

○小池委員

字を見てももちろん意味合いは分かるし話し合いも経てるので違和感はないのですが、あんまり学校では共創という言葉は使わないのできつとうちの教員は分からないなと思いました。私も代案やこういう言葉が良いというのがなくて申し訳ないですが、以上です。

○五十委員長

すごく良いご意見をいただいたと思います。確かに矢印から下の方が分かりやすいというか、自立という一人ですべていけというようなすごく強い言葉にも捉えられるのですが、そうではなくて矢印のような説明でいけば、こういうことだというのが分かるかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

○青山副委員長

よろしいですか。青山です。コンセプトには多分二つの意味があって共創の方にフォーカスするのであれば、子供・若者と社会を共創する施設というのが下の説明とも合うと思います。もちろん色々な体験ができたり、色々な活動をする中で社会教育施設として学びや成長を促す施設でもあるので、子供や若者の学びや成長の機会が多様にあることと、社会自体を共に作るのだということ、その要素があること自体は多分そんなに皆さん違和感がないのだらうと思います。矢印の先には、あまり学びの要素が今は入っていないような気がします、コンセプトはその2個が入っていればいいのかなと思いました。

○岩切委員

コンセプト自体、目的の方が上位に来るのかなという気がしたのですが、結果として自立

したり、結果として社会参画していく子もいるという話だと思います。この施設のコンセプトのプロセスとしては、例えば「子供・若者の多様な学びや交流を共創する施設」という考え方もあるかなと思いました。

学びや交流というものを、例えば特定の施設だとか専門家が与えるとか作るということではなくて、いろんなステークホルダーの方がいろんな企業や団体であったり、もちろん子供・若者自身も含めて共創していく、作り上げていく、共に作っていくのだという意味での学びや交流というか。一方的ではない学びや交流を提供していく施設という意味では、社会を共創する施設とベクトルが違うかもしれないですが、何を提供しているのかと言われたら、多様な学びや交流を皆さんと一緒に届ける施設ですよ、という方が分かりはいいのかなという気はしました。結果、社会を共創していることに繋がるという話なのかなという印象もありました。以上です。

○五十嵐委員長

想いは皆さん一緒という感じがするのですが、良い言葉がこの場ではうまく出ないかもしれないので、その辺は事務局にお任せしてもよろしいでしょうか。

○吉田社会教育施設調整担当課長

事務局が一任されて何かまとめることが、東京都のルールで出来なくなっておまして、あくまでいただいたご意見だけで、最終的に完成させなければいけないことになっています。東京都としてはこれを受けた上で、自分たちの中で例えばコンセプトだとか目的だとか、改めて言葉を見直していく。そういった形になっておりますので、こちらの方で預かるということも難しいので、いただいたご意見で複数のものを、例えばコンセプトとしての考え方だとかをここに記載したものにするだとか、そういったことならできるかと思っております。一つにもし決められなければご意見として二三だとか出たもので書かせていただくなど、そういったまとめになるかと思えます。

○五十嵐委員長

趣旨としてはコンセプトの下に書いてある矢印の部分にプラスして、学びですとか交流と言ったところで、機会や多様な学びとかを得られる施設だということを加えていくような趣旨かと考えたのですが、そういう形でまとめれば意見としてのまとめになるかなと思います。

○青山副委員長

今の話は、コンセプトの二重線の中を使わずにという意味ですか。

○五十嵐委員長

二重線の中の言葉は結果として自立発達に繋がるとかそういう言葉であればいいかと思うのですが、自立発達に向けた社会を共創するというと、強制的に一人で生きていけみたいに捉えかねないという感じが出てきてしまいます。そうではなくて、朝日委員からもありましたように、プロセスとしてこういうことを提供する、それは岩切委員からありました学びや交流と言ったところで様々なNPOや地域・学校の接点となっていき、子供・若者と一緒に社会を創って行って、結果として自立発達の動きなどにもつながるという形にしたらどうかと思いました。

○青山副委員長

青山です。

○五十嵐委員長

どうぞ。

○青山副委員長

そうなってくるとコンセプトと目的の関係もなかなか難しいなと思うのですが、コンセプトという言い方か、あるいは重点テーマぐらいにしておいて、三つ併記してしまうのはどうですか。

○五十嵐委員長

同じコンセプトとか目的を作る必要もないので、おっしゃるようなやり方でも良いかなと思います。

○青山副委員長

例えば、イメージですが、二重線の中は一回使わないことにして、矢印の後のものを三つ並べると、「専門性を持った様々なNPOは地域学校の接点となること」。2つ目に、「若者の多様な学びや交流の機会があること」。3つ目に、結果としてと言うかは置いておいて、「子供・若者と一緒に社会を作っていく拠点となること」。そんな三つの要素を特出しすると、今の話のまとめとしては近いのかなと思っています。一行でというと、どうしても修飾関係が難しいとすれば、そういったような要素がやっぱり中心なんだということを使うということですね。それは目的という言葉のところにある二点との関係の整理が必要かもしれませんが、機能とはそんなに齟齬がなく流れていくかなと思って読みました。この段階でここを変えるのは事務局の負担も大きいかもしれないと思うのですが、今の話を踏まえると、そういったようなまとめ方もありかなと思いました。いかがでしょうか。

○五十嵐委員長

他の方がいいでしょうか。

○倉持委員

倉持です。良いと思います。順番とか表現を整理すると、「子供・若者の多様な学びや交流の場」「専門性を持った様々なNPOや地域学校との接点」「子供・若者とともに社会を創造する拠点」みたいな感じで、三つのコンセプトでなんとかいけるかなと思います。

○五十嵐委員長

目的をもうその中に含まれている感じがしますので、あえて目的を並べなくても、今のテーマと具体的な機能としてこういうものですよということで、この委員会をまとめるのもよろしいかなと思うのですが、いかがでしょう。他にご意見ございますか。

○青山副委員長

これまでの議論を踏まえると社会参画とか共生という言葉自体がこのページからなくなってしまったのももったいない気も少ししています。つまりただの学びや交流の場じゃなくて、上位の概念をどうやって社会を作っていくかってところから考えようよという議論も結構出ていたので、目的という形で残さなくてももちろん良いと思うのですが、どこかで若者の参加とか共生という言葉があっても良いかなという気はしました。

○五十嵐委員長

そうであれば、先ほどのテーマのところ、結果として社会の参画とか、共生に繋がるとか繋げるとかそういうことで入れてもいいのかなと思います。

○青山副委員長

コンセプト三点の後の矢印のところ、今の目的になるみたいなイメージですかね。

○五十嵐委員長

はい。強制的な感じの色合いが薄れて、意図としてはこういうことだけど、まずはこういう活動を展開しましょうよというところがまずは大事ではないかなと思います。他に何かございましたら伺いしたいと思います。

○朝日委員

朝日です。今のご意見に賛成ですが確認です。コンセプトのところ、こういう施設ですよという、特に何々をする施設ですよということを言って、目的はどちらかというとその結果ということになり、社会参画や共生社会につながるというような整理でしょうか。そうすると表現も少し取り組みを促進する施設みたいな形になっている感じがするので、もう少し

その結果として何が実現されそうかという社会参画であったり共生参加社会であったりというところを少し調整していただければすごく分かりやすい。こういうことをやる施設でその結果としてこういう狙いがありますよということで分かりやすいのではないかなと思いました。

○五十嵐委員長

取組促進ではなくて共生社会の実現ですとか、社会参画・自立の実現というか、言葉を変えれば良いのではないかと思います。いかがでしょう。そろそろ時間も来てしまいましたが、そのような形でまとめるということによろしいでしょうか。大丈夫ですか。

○一同

異議なし。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。それでは終盤になってたくさん意見が出てまいりましたが、時間もなくなってきましたので皆様方から一言ずつご感想なり思いなりいただければと思いますが、いかがでしょうか。名簿の順番でいきますと青山委員いかがでしょうか。

○青山副委員長

ありがとうございます。最後もなんとなくまだ終わる気になってないのですが、私にとってもいい場になりました。一つだけ確認したいなと思っていたのは、これが出ていく時のまとめのタイトルみたいなものが区部ユース・プラザに関する基本構想というふうになるのかなとも思っています。今の議論だと、一番下に区部と多摩と書いてあるんですが、ここに出ているコンセプトとかは区部ユース・プラザに関する基本構想というよりは、ユース・プラザ事業全体のものだという立て付けでこの書類が作られていると思うので、できる範囲があるかもしれませんが、そこがもう少し明確になると読み手に伝わりやすいかなという感想を持っていました。ありがとうございました。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。では朝日委員お願いいたします。

○朝日委員

ありがとうございます。資料を見直していて忘れていたものも思い出したのですが、大変勉強になりました。私は公共施設ということで見ていた部分があるのですが、中身の社会教育に関する状況であるとか課題というところも大変勉強になりました。特に今日も思ったのですが、共創というコンセプトはすごく大事なものだなと思ってきた部分がありまして、

ビジネスから地域社会に広がってきているような理解はしているのですけれども、教育の場面で必ずしも馴染みのある言葉ではないところもあります。施設の機能として行政とか地域の言葉としては普及してきているけれども、社会教育という文脈で考えた時に、それが何を意味するのかというところはきちんと検討して伝えていかないと名前倒れになってしまうのではないかと思いました。本当にいろいろと勉強させていただきまして、ありがとうございました。

○五十嵐委員長

次は五十嵐なのですが、私もいろいろ社会教育ですとかNPOの問題ですとか、すごく勉強させていただきました。私自身はどちらかというと、学校施設とか公共施設中心だったりするのですが、やはり地域社会ですとか子供とか青少年の問題と密接に関連して解いていかなとなかなか解決策に結びつかないなというのを実感しております、その点ですごく勉強になったところがございます。ありがとうございます。次に岩切委員お願いいたします。

○岩切委員

先ほどのところを自分の中で整理したので、そこだけ確認してもいいですか。先ほどの話の前段を考えた時に、「共生社会や子供・若者の社会参画の実現に向けて、以下の点が重要である。」1つ目が「多様な学びや交流の機会を提供する」。2つ目が「専門性を持った様々なNPOは地域や学校の接点となる」、3つ目が「子ども・若者とともに社会を作っていく拠点となる」という認識で大丈夫ですかね。分かりました。ありがとうございます。

私自身は本当にずっと現場であったり社会的な支援の仕組みづくりみたいなことを、NPOだとか公共団体と一緒にやってきたのですが、こういった施設そのものに出来上がる前の段階でお話をさせていただける機会は初めてでして、非常にありがたい機会をいただいたなと思っています。私自身がまさにここができる江東区でずっと育て、活動も江東区を拠点にやっているところもありましたので、この後の行く末を非常に楽しみなところがあります。ここで議論されたことが、どういうふう to 実現されていくのかは、今後もぜひ注視して良い形になればなという思いでございます。以上です。

○五十嵐委員長

次に倉持委員お願いいたします。

○倉持委員

長期にわたる会議だったと思うのですが、実際に区部も多摩の施設も見学させていただいたり、いろんな委員のそれぞれの立場の方からご意見を伺ったりして、東京都ならではの青少年を対象とした施設の必要性とか、今後の未来像ということと一緒に議論できたり、考

えることができた大変貴重な機会でした。各区町村の方でも、個別で様々な若者の支援社会教育の施設を持っているのですが、改めて東京都として社会教育施設をこれからやっていくことの意義とか必要性を今回はすごく考えさせられましたし、東京都ならではの地域性や若者の特性なども考えさせられました。施設は社会教育施設ですけれども、様々な東京都の地域課題を若者と一緒にどういうふうを考え、若者にどう力をつけていってもらおうかという意味で、区部にしろ多摩にしろ、こういった拠点となる施設の存在意義はこれからますます高まっていくのではないかと今回の議論を通して感じました。ありがとうございました。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。それでは最後に小池委員お願いいたします。

○小池委員

一年以上にわたって普段接する方とは違う分野の方々の話を聞けてとても有意義で良い機会になったなと思っています。両方の施設とも、毎年のように泊まりには行っていますが、泊まる施設としてしか見ていなかったのが、こういう機能のある施設だったというのを改めて認識したところです。最後のまとめにもあったように、特別支援学校とか障害がある子ある人が利用しやすく、行きなさいじゃなくて行きたいと思うような、そういう施設になったらいいなと思うし、こんな良い所があるというのを、児童・生徒とか卒業生に学校も紹介できるような、そんなふうになったらいいなと思っています。この立場で出来るところは今後もご協力したいなと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。一年間ありがとうございました。

○五十嵐委員長

ありがとうございました。最後きちんと文章で見てないのですが、なんとかまとまったのかなと感じています。これを持ちまして、本日の検討は終了させていただきたいと思います。今回で終了となりますけれども、議事の進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

○村松課長代理

五十嵐委員長ありがとうございました。また、委員の皆様も本日も貴重なご意見たくさんいただきましてありがとうございました。本日をもちまして基本構想検討委員会は終了となりますが、今後の予定についてご連絡させていただきます。本日の委員会での検討内容についてですが、本日いただきましたご意見を踏まえまして、改めて内容を検討、調整させていただきます。その後、今後公表を予定しております。公表の際には、予めご連絡をさせていただきます。またその後、都として事業構想を公表する予定としております。よろしく

お願いいたします。それでは最後に教育庁地域教育支援部社会教育施設調整担当課長の吉田よりご挨拶申し上げます。

○吉田社会教育施設調整担当課長

それでは事務的なことを含めてお話させていただきます。東京都のルールがあって、戸惑い気味の終わり方になって大変申し訳ございません。私の方の説明不足でもあったかと思えます。最後委員長からもお話ありましたが、どうしてもやはり文章化されているものでないと、頭の中で認識がしづらいと思えますので、改めて事務局の方でいただいたご意見を反映させましたものを全委員の方に見ていただきます。ご意見を確認させていただきますので、その上で全員からこういう意見でしたということをお願いした上で、公表に向けた段取りを組みたいと思っております。大変分かりづらい中で申し訳ございませんでした。

これまで通してきた中で、実際の現場ですとか、学術的な見地だとか、本当に私が全くわからない世界の中で、皆様の貴重なご意見を本当にいただけたと思っております。私自身も非常に勉強になりましたし、こうした施設の担当となって今貴重な施設だというふうに思っておりますので、役割だとか機能といったものをしっかりと考えて本当に良いものに今後作っていきたいと思っております。長い期間にわたって、委員の皆様からご意見いただいて、中断した時期もありましたけれども、今後も引き続いて検討の方は続けて参りますので、またご協力賜ればというふうに考えております。まず一旦の区切りといたしまして、本当にこれまでご意見いただきましてどうもありがとうございました。大変感謝申し上げます。

○村松課長代理

では、以上を持ちまして区部ユース・プラザ基本構想を検討委員会第5回は終了とさせていただきます。皆様、どうもありがとうございました。

午後 3 時 00 分 閉会